

国会決議無視の TPP 交渉に、「道新」も JA 全中会長も JA 北海道会長も「納得できない」と声を上げている。譲歩交渉は大問題。(紙議員)

山下芳生書記局長が記者会見

**TPP「大筋合意」できず——各国で反対世論が広がった結果
局面は緊迫状況が続く——譲歩案の撤回、交渉撤退を求め**

日本共産党の山下芳生書記局長は、3日の記者会見でTPP交渉閣僚会合での「大筋合意」が見送られたことについて、「各国の経済主権や国民生活より多国籍企業の利益を優先させるTPPに対して、各国で反対の世論が広がった結果だ」と述べました。また、日米交渉で日本政府が米側の要求に譲歩を重ねたと報じられていることについて、山下氏は「国会決議、自民党の公約に照らして、重大な背信行為といわなければならない」と指摘。農畜産物の関税引き下げや輸入枠の拡大など、とりわけ農業分野で譲歩を重ねたことは「国内農業と農村の崩壊を一気に進め、食料安全・安定供給を脅かす」と批判しました。その上で、「局面はまだ、緊迫した状況が続いている」と述べ、「国民的な運動と連携してたたかう」ことを表明。交渉経過を明らかにする、譲歩案を撤回する、交渉から速やかに撤退することを主張しました。

参院農水委員会・紙智子議員

**「合意内容」が国会決議に明確に反し、その中身を知らないにもか
かわらず、「予算編成を進める」ということは本当なのか**

4日の農林水産委員会で紙智子参議院議員は、TPPの閣僚会合が「大筋合意」されないままに終了したもので、国会決議を無視した政府の交渉には多くの批判があること、譲歩に次ぐ譲歩には「納得できない」と怒りの声が上がっていることを示し、批判しました。

また、合意していないにもかかわらず、自民党政調会長、戦略調査会長が補正予算の準備にとりかかると発言している問題について、「国会に合意内容を一切報告もしていないのに、おかしいじゃないですか」と厳しく追及しました。紙議員は、「仮に8月に合意になったとしても米政府は、議会への協定締結の報告、経済的影響評価に3カ月かかる。協定締結は早くても11月末◆



質問する紙智子議員＝8月4日
参議院農水委員会

◆それから法律改正事項の提出、どんなに早くても審議は来年2月の大統領選の予備選挙の時期に重なる。事実上できないことになる。ましてや8月末に合意できないとなったら、来年11月の大統領選以降になる、そういう意味では漂流する状況になる。その点についての認識はいかがですか。」と質問しました。

澁谷和久参考人は、「今回、アメリカが、一度解散して集まろうと判断をされた。何とか今月中に集まろうという思いでございます」と答弁しました。

紙議員は、「中身が煮詰まらないと進まない」と指摘し、国会決議に反する譲歩交渉を厳しく批判しました。

「北海道新聞が書いています。とにかく日本政府の姿勢が際立って目立ったと。各国が自分たちの利益を守るために必死に譲らない交渉をしているなかで、日本だけは前のめりにどんどん譲歩し、もうカードも使い切ったと指摘している」「政府が何としても大筋合意すると、決議に真っ向から反する譲歩に次ぐ譲歩をして、本当に問題だと思う」と述べて、報道されている米、牛肉、豚肉、乳製品の譲歩内容と甘利大臣発言を数字をあげて批判しました。

「米に関して言えば、甘利大臣も発言され、五万トンの別枠輸入を米国に譲歩し、米国は十七万トンを要求、そうしたら五万トンプラス二〜三万トンを上乗せ(裏面へ続く)